



# さんにとちだより

荒川区立第三日暮里小学校  
発行日 令和5年1月10日  
発行者 校長 末永 寿宣

# 1月号

学校目標  
考える子  
たくましい子  
思いやりの  
ある子

## 三日小の若手教員育成～授業で指導力を鍛える～ 校長 末永寿宣

教員は、失敗に学びながら成長していくものですが、特に若手教員は、まだ経験の少ない段階で対処困難な事例にぶつかり、自信をなくしてしまうこともあります。それを防ぐためには、周りの先輩教員が若手教員の力量を考えながら、日常的に課題解決や悩みの解消を支援し、成長をサポートすることが何より効果的であることは言うまでもありません。その原動力となるのが、指導力です。本校では、毎年、新規採用3年までの若手教員を対象に授業研究を行い授業力向上を目指しています。



▲1年生/国語「ものの名前」/日頃より学級経営に力を注ぎ、授業での抑えるポイントを明確にすることが目標です。

板書を丁寧に、1年生がノートに書きやすいように工夫しています。子どもたちが単元全体を把握しやすいようにすることが今後の課題です。



▲5年生/国語「想像力のスイッチを入れよう」/個人作業で自分の考えをまとめ、グループディスカッションで友だちの意見を回し読みにて理解することをめあてにしました。

自分の意見を書かせる際、今後は、自分の経験を織り交ぜながら、原稿用紙一枚にまとめる練習を積み重ねるようにします。



▲2年生/英語「英語で犬はなんて鳴くの?」/楽しみながら英語で動物の鳴き声と名前を覚えられると、英語が好きになります。

動物の鳴き声を英語で聞くことで、英語のリスニングや発音のコツをつかむことができます。同じ鳴き声を聞いても、発音の違いから言葉として表現する



ときに相違が出てきたようです。

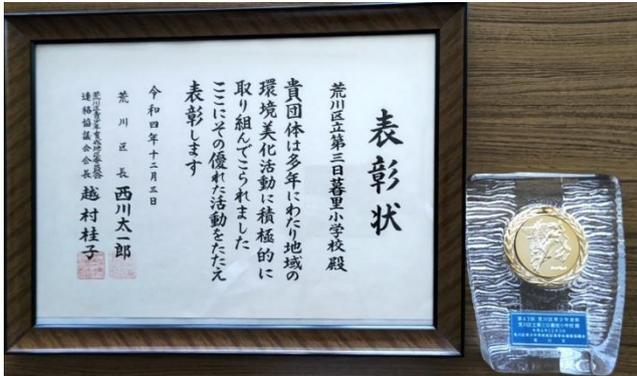


▲4年生/国語「つながりに気をつけよう」/言葉と言葉や文と文のつながりに注目して、分かりやすい文章について考

えました。電子黒板を有効活用しています。

# 三日小のトピックス ～国際交流・学校表彰・寄贈型 SDGs 私募債寄贈

西オーストラリア州アルバニーの郊外に位置する町「リトル・グローブ」にある公立リトルグローブ小学校の5・6年生の「日本語専攻クラス」との交流は2年になります。オンラインの整備が進み、交流がスムーズに進んでいます。また、近隣の日暮里公園での清掃活動が評価され、荒川区青少年団体表彰を受賞しました。地域の方の応援で、三日小は、益々充実しています。



## ▲第43回荒川区青少年団体表彰

「平成28年度から各学年が協力し、日暮里公園周辺で清掃活動を行っており、地域の環境美化に貢献している」ことが評価されたものです。おめでとうございます。

▲三日小の子どもたちは英語で「Hello!」、リトルグローブ小の子どもは「こんにちは」と笑顔であいさつし合いました。一人一人自己紹介をした後、学んでいる英語で発音に注意しながら、相手国の文化や最近の様子を聞いたり話したりしました。

この取り組みは、両校の児童が互いに相手国の言語を用いて、コロナ禍においても、オンラインによるコミュニケーションを図り、互いの国や文化に興味をもち、友好関係を築くことを目的に実施しています。

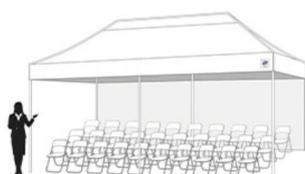


▲北陸銀行様を介して、「寄贈型 SDGs 私募債」として、ご寄付いただきました。これは、発行企業である「株式会社総合設備計画（代表取締役社長 中島 一則様）」の希望により、北陸銀行様が受け取る手数料の一部を SDGs に積極的に取り組む第三日暮里小学校に寄付していただいたものです。

この寄付金は、運動会等の敬老席の拡大のため、大型テント購入資金に充当させていただく予定です。



▲英語の授業で作成したクリスマスカードを交流校のリトルグローブ小へ送りました。そのお礼に写真が送られてきました。交流学年の5年生は「自分が書いたカードがオーストラリアの友だちが持っているのが不思議です」と、とても喜んでいました。



(左画像/  
「ワンタッチテント」  
カタログより)